Par() 関数

Shouhei TAKEUCHI

October 5, 2015

Contents

par() 関数の使い方	2
このファイルの更新情報	2
データフレームの作成	2
グラフの見かけを調節する	2
色	2

par() 関数の使い方

作図の際に、さまざまなパラメータを指定する par() 関数を使いこなすために、情報をストックしていくファイル。

このファイルの更新情報

このファイルは 2015-10-05 17:45:04 に更新されました。

• github で公開してみた。

データフレームの作成

最初にデータセットを準備しておく。データフレームは簡単なものを用意しておく。

グラフの見かけを調節する

表示するグラフの色や線の種類など、グラフの見かけを調整するパラメータを指定する。

色

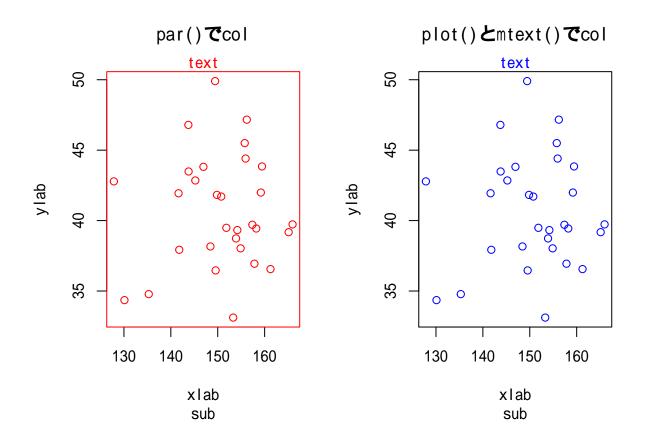
色の指定のため、col、fg、bg、border 引数についてまとめる。

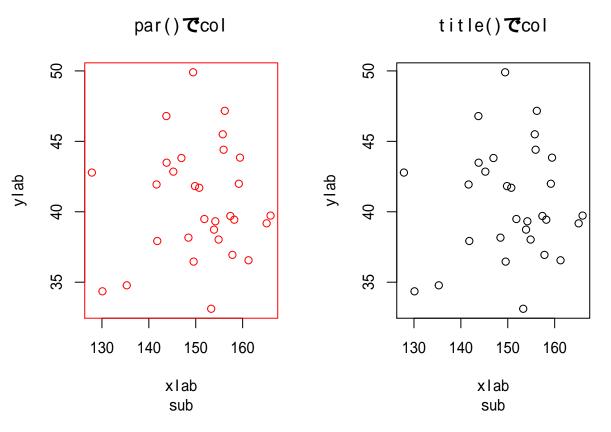
col

plot region に描かれるデータシンボル、線、テキストの色の指定に利用する。軸、ラベル、タイトル、サブタイトルは col.axis、col.lab、col.main、col.sub を利用する。

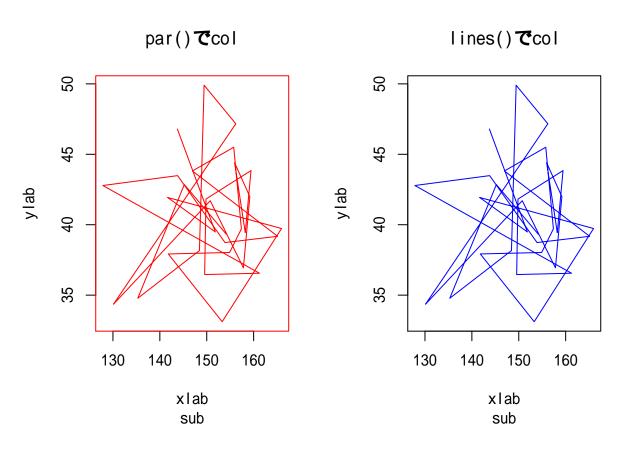
散布図 par() 関数内の col オプションは、plot() 関数で作った散布図の、データシンボルや線と枠の線の色を変更している。plot() 関数内の col オプションでは、データシンボルの色だけが変わっている。低水準関数でのプロット(lines() 関数や points() 関数)では、plot() 関数の時と同じ影響範囲となっている。

マージン(プロット領域の外側、作図領域の内側)では、mtext() 関数の出力には影響している。title() 関数には影響しない。





```
plot(dat$height, dat$weight, type = "n",
    main = "lines() で col", sub = "sub",
    xlab = "xlab", ylab = "ylab")
lines(dat$height, dat$weight, col = "blue")
```



```
op2 <- par(col = "red")
plot(dat$height, dat$weight, type = "n",
    main = "par() でcol", sub = "sub",
    xlab = "xlab", ylab = "ylab")
points(dat$height, dat$weight)
par(op2)

plot(dat$height, dat$weight, type = "n",
    main = "points() でcol", sub = "sub",
    xlab = "xlab", ylab = "ylab")
points(dat$height, dat$weight, col = "blue")</pre>
```

